

平成29年度 学校経営方針【年度末評価】

教育目標

○「自ら学ぶ意欲をもち、人権を尊び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」
＜展望する力＞ ＜つながる力＞ ＜挑戦する力＞

めざす生徒像

○自ら学び考える生徒（主体性・自主性の育成） ＜展望する力＞

○命と人権を尊重する生徒（確かな人権意識と豊かな感性の育成） ＜つながる力＞

○心身ともに健康な生徒（明朗・快活な人間性と健康でたくましい心身の育成） ＜挑戦する力＞

平成29年度学校経営計画兼学校評価書【年度末評価】

京丹波町立蒲生野中学校 <NO. 1>

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	自己評価	関係者評価
<p>・京都府教育委員会、京丹波町教育委員会の示す方針を踏まえ、公教育の推進に努める</p> <p>・平成29年度「京丹波町教育の指針」「京丹波町教育振興基本計画」、改訂「京都府教育振興プラン」「平成29年度学校教育の重点」等に基づく教育活動を推進する</p> <p>・人権尊重をあらゆる教育活動の基盤として、一人ひとりの生徒の可能性を尊重し、その個性と能力を十分伸ばし、変化の激しい社会を自らの力で生き抜いていける学力を身につけさせる</p> <p>・「学びを育む京丹波町メソッド」の徹底を図り、生徒を学習の主体者とし、持続可能な学力向上システムの開発を目指すとともに、学びの基盤となる学習集団の育成に努める</p> <p>・学校教育目標の達成のため、全教職員が共通理解を深め、組織として一致協力した実践に努める</p> <p>・実践的な研究・研修を進め、教職員としての指導力量の向上と資質能力の向上を図る</p> <p>・小・中の連携を積極的に進め、学びの連続性を高め、一貫した教育内容・教育課程の構築に努める</p> <p>・家庭や地域社会の期待を真摯に受け止め、学校が地域にできること・地域が学校にできることを積極的に取り入れて、学校・家庭・地域社会の協働によるより良い教育環境づくりに努める</p>	<p>【成果】 ○教職員の組織的な実践と中堅・若手の力量向上により、学校の組織的な力量（チーム力）が発揮できる素地が築けた</p> <p>○生徒会活動や部活動の活性化により、生徒に学校の主体者であるという意識が芽生え、学校をより良く変えていこうとする意欲とその成果に対しての誇りを感じ始めている</p> <p>○教職員の組織的な実践と生徒自身が学校を改善しようとする動きが実を結び、落ち着いた学校生活が実現し、積極的な生徒指導、学習指導に向かえる素地が形成できている</p> <p>【課題】 ・講義主体の授業を改善し、生徒を学習の主体者として、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の在り方を模索し実践する必要がある</p> <p>・対話的な学びの基盤となる学習集団作りを追求し、生徒が安心して発言でき、一人ひとりの違いを認め、尊重する学級経営を推進する</p> <p>・長期的な視野に立って、家庭学習習慣の改善も含む生徒の「生活管理能力」を育成する</p> <p>・総合的な学習の時間等を活用して教科横断的に生徒の思考を活性化させ、学んだこと・気づいたことを元に自分の考えをまとめ、表現できる力を伸ばすシステムを構築する必要がある</p> <p>・全教育活動において生徒のチャレンジを喚起し、頑張る自分・頑張る仲間に対する誇りを持てるよう指導を展開する</p>	<p>(1) 学習指導の改善・充実</p> <p>(2) 人権教育の推進</p> <p>(3) 生徒指導の充実</p> <p>(4) 特別支援教育の充実</p> <p>(5) キャリア教育・進路指導の充実</p> <p>(6) 道徳教育の充実</p> <p>(7) 健康安全・防災（犯）教育の充実</p> <p>(8) 食に関する指導の充実</p> <p>(9) 特別活動の活性化</p> <p>(10) 総合的な学習の時間の計画的な運用</p> <p>(11) 読書活動の推進</p> <p>(12) 国際理解教育の充実</p> <p>(13) 研究・研修の充実</p> <p>(14) 組織運営の充実と活性化</p> <p>(15) 保護者や地域社会との連携・特色ある学校作りの推進</p>	<p>◇生徒会（特別活動）を軸に、生徒の主体的な活動を引き出し、より良い学校づくり、誇れる学校づくりを進めることができ、落ち着いた生活の中で、互いを認め尊重できる関係性を築きつつある。</p> <p>◇保護者アンケートの11項目すべてで、肯定的な回答が増え、本校実践及び生徒の変容に対して肯定的な受け止めが増えている。</p> <p>◇「学びを育む京丹波町メソッド」への共通理解が進み、同じ方向性を持って授業改善を推進し学力の向上を目指すことができた。府中2学テ及び全国中3学調の結果を見ても、上昇傾向が見られる。</p> <p>△アクティオ手帳活用、蒲生中SRBメモの活用等、今年度の取組を継続・発展させる必要がある。</p> <p>△自己管理能力の育成、課題発見能力の育成、家庭生活のふり返り等の取組、自主学習ノートの取組等と生徒会からの働きかけを連動させて、家庭学習習慣の確立及び家庭学習の質の向上に取り組む。</p>	<p>◇生徒の意識、意欲が向上し、生徒会活動を中心とした取組によって学校全体に活気が生まれ学校改善が進んだ。生徒や学校の変容により、保護者の信頼が増したように見える。</p> <p>◇学力面の向上も見えるので、今後もしっかりと取組を継続する。また、家庭学習への意欲付けについても学校がしっかりと役割を果たすように取り組んで欲しい。</p> <p>◇学校生活での落ち着きや前進を、家庭にも繋げられるように、保護者連携を更に強める必要がある。</p> <p>◇教育委員会の協力のもとに、小学校と中学校が歩調を合わせて、生徒指導や学力充実に取り組む必要がある。</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	評価						成果と改善点	
			自己評価			関係者評価			自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末	年度末	年度末	年度末		
学習指導	○主体的・対話的で深い学びへの指導方法の改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」による見通しと「振り返り」を重視した学習活動の推進による「わかる・できる」実感の積み重ね 	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学びを育む京丹波町M3D」を共通基盤に、より良い授業づくりに向けての組織的研修が推進できた。 学力テスト結果等の分析により学力の上昇傾向が見られる。 めあて、振り返り、言語活動の質の向上に向け継続的に取り組む必要がある。 自己管理能力、課題設定力の育成と絡めて、家庭学習の充実が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> めあて、振り返りを重視した学習活動が学力向上に繋がっている。 学習基盤として安心して自分の考えを話せる状況、間違いを気にせずに発表できる状況を今後も大切にする必要がある。 学力充実に向けて、小中連携の一層の推進を大いに期待する。 	
	○わかる授業を展開し、基礎的・基本的な内容を定着させる	<ul style="list-style-type: none"> 授業と連動した家庭学習課題の提示により学習内容の定着と家庭学習習慣の確立を図る 単元指導計画に「ペア・グループ学習」を適切に位置づける 	B	A	A	A	A			
	○生徒の学習意欲を高め、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな指導を行い、学力を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> 「ペア・グループ学習」における課題の工夫による学び合いの促進 授業改善及び外部人材（出前講座）の活用等による知的好奇心の喚起 	B	A	A	A	A			
	○学力向上システム開発校の指定事業等を有効に活用し、生徒の学力の定着・向上や生活の改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> 英検、漢検等を活用した知的チャレンジの奨励 各種学力診断テスト結果、アンケート結果の分析による生徒の変容の適切な把握 	A	A	A	A	A			
	○家庭学習の習慣化を図る取組（家庭連携含む）を進め、自学自習力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携による「学びの連続性」の確立 TT及び学習支援員の活用による適切な学習支援 	B	B	B	B	B			
人権教育	○互いの個性や価値観の違いを認め、自他の生命と人権を尊重する態度や実践力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 教職員がまず傾聴する姿勢を示し、一人ひとりの発言を尊重し、授業は「安心して間違える」場であることを徹底する 	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 互いを認め尊重する学級づくりが進展し、授業で安心して意見交換等ができています。 高度情報化社会での人権意識の育成、学期毎に焦点化した人権学習の充実が課題である 	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重は、授業や学校生活を支える基盤として今後も重視する必要があります。 高度情報化社会では、人権意識の向上が自己を守ることに繋がる点を強く指導して欲しい。 スマホの使い方等については、家庭への働きかけが不可欠である。 		
	○一人一人の価値を認める学習集団づくりの推進（発言を聞く、発想を認める、間違いを許容する、仲間の成長を喜ぶ）	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒に様々な人権問題の正しい理解や認識の基礎を培い、その解決に向けての展望を持たせる指導を推進する 生徒・教職員が日常的に人権を意識した言動に努め、教職員の人権意識を磨くとともに、指導力を高める研修等を実施する 	A	A	A	A			A	
	○人権教育指導計画に基づき、系統的に発達段階に応じた指導の充実を図る		B	B	B	B			B	

評価項目	重点目標	具体的方策	評価						成果と改善点	
			自己評価			関係者評価			自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末	年度末	年度末	年度末		
生徒指導	○満足感や充実感を味わえる授業・部活動等の学校生活をとおして、個性豊かで思いやりのある人間性と確かな判断力を有する社会人になるために必要な規範意識を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の三機能（自己存在感・共感的理解・自己決定）を基盤にした生徒指導 朝活指導事項に基づく一致した指導内容、組織的な指導体制の重視 生徒の気持ちに共感する姿勢と間違いを正す毅然とした態度の両立を目指す 	B		A		A		<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた生活が実現し反社会的事象が減り、生徒会を軸に主体的に生活向上に取り組んでいる。 登校しぶり等の克服に、小中の縦の連携を一層充実し、早期から教育相談機能高め継続的に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた状況が定着するまで粘り強く取組を継続する必要がある。 小中連携による生徒指導の一貫性を大切にして欲しい。
	○生徒の心身の発達を踏まえ、内面理解に努めることにより、豊かな人間関係づくりをめざす	<ul style="list-style-type: none"> 学校や社会のきまり、マナーを意識させ、規範意識の醸成を図る 教育相談機能を高めるとともに、S C、S S Wの活用と関係機関との連携を推進する 	B	B	B	A	B	A		
	○家庭・地域社会・校種間や関係機関との連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> 非行防止教室等の活用による問題行動の未然防止 	B		A		A			
特別支援教育	○生徒一人ひとりや保護者の教育的ニーズを把握し、個別指導計画の作成をとおして必要な指導と支援を行うとともに、合理的配慮の提供を踏まえた指導の推進に努める	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会を開催し、支援が必要な生徒の実態把握を計画的に行い、個々の発達に応じた適切な支援を進めるための個別の指導計画の更新を行う 合理的配慮の提供を踏まえた支援と指導方法の工夫改善に努める 	B		B		B		<ul style="list-style-type: none"> 「学びを育む京丹波町Mitt」の視点で校内環境の整備を行い、保護者アンケートでも好評価を得た。 個別の指導計画をP D C Aサイクルで更新し、校内委員会で共有化を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の特性を十分に理解した支援になるよう注意する。 深い生徒理解による個別の指導計画の作成とその見直しを大切にする。
	○特別支援教育やインクルーシブ教育について、生徒、保護者や地域社会への理解と認識を深める	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある生徒や人への理解を深める指導の充実と啓発を図るとともに、交流学习の場を保証する 	B	B	B	B	B	B		
	○学級内の支援対象生徒の把握と適切な支援に努める		B		A		B			
キャリア教育・進路指導	○職場体験学習や豊かな体験活動等をとおして自らの生き方を考えさせ、望ましい職業観・勤労観を育むことなどにより、キャリア教育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、職業の理解、上級学校の理解等を図る取組を計画的に実施し、自らの将来を考え、今の自分を見つめる指導を展開し、目的意識をもった生活につなげる 進路実現に必要な学力の定着・向上に努めるとともに、適切な進路情報を提供し、自ら考え、行動し、判断して進路決定を行うという流れを重視した指導を展開する 	B		B		B		<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、将来設計に基づく進路選択を導くことができた。 人生の先輩に尋ねたり、地域の職について主体的に学ぶ機会の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単なる夢に終わらせないよう、深い自己理解を大切にする。 上級学校についての情報収集及び提供を強化する。
	○学年毎に系統的・組織的で発達段階に見合った進路指導計画を立案し、二者面談等を充実させ、一人ひとりに応じた適切な進路指導をめざす		B	B	A	B	B			

評価項目	重点目標	具体的方策	評価						成果と改善点	
			自己評価			関係者評価			自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末	年度末	年度末	年度末		
道徳教育	○指導項目に基づいた適切な道徳教材の活用、及び発達段階に見合った系統的・組織的な年間指導計画に基づき望ましい人間としてのあり方・生き方について学ばせる	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通して、道徳的な価値を考えさせ、自らの生き方を考えさせる指導を展開するとともに、その要となる道徳の時間の充実を図る 生徒実態に応じて「私たちの道徳」「今日の子ども明日へのとびら」や地域教材等の資料の活用法を検証し、その指導案の蓄積を図る 道徳の教科化に向けて、内容の取扱や評価等についての研修を実施する 	B		B		B		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた指導の展開と資料の蓄積を図れた。 道徳の先行実施に備えた指導方法、評価の研修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の道徳意識を的確に捉え、適切な教材を活用した指導を展開する。 多様性の重視を中心に据えて、重要な科目と捉え万全の準備を行って欲しい。
	○地域人材や教材を活用した取組に努める		B	B	B	B	B			
	○道徳の教科化に向けた研修を行い、具体的な取組につなげる		C	C	C	C	C			
健康安全・防災(犯)教育	○生命の尊重を基盤にした健康安全・防災(犯)教育を徹底し、危機管理体制を強化する	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識をたかめ、校内施設点検、教科や部活動の指導内容・活動内容の点検や避難訓練等を定期的実施する 喫煙防止教室、薬物乱用防止教室、性教育を着実に実施する 	B	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用防止教室等の実施、フッ化洗口の開始等、計画的に進められた。 油断無く危機管理意識を持ち教育活動を点検する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> フッ化洗口は、フッ素の適量で適正な使用に留意して実施を継続する。
食に関する指導(食育)	○日常の食習慣を見直し、栄養面の大切さを習得するために、適切な食育年間指導計画を作成し、校内研修・授業研究を行い、食育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食を食育の中心に据え、年間指導計画に基づいた指導を展開する 食物アレルギーに関する研修、嘔吐時の対応に関する研修等を実施し、安心・安全な給食の確立を図る 	B		B		B		<ul style="list-style-type: none"> 安心安全を最優先に給食が実施できた。 1年生がパートナースクール事業の取組で地域の食を調べ発表できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食は円滑に実施されている。 食育に関わって須知高校との連携も視野に入れるべき。
	○学校給食の円滑な実施をめざす		A	B	A	A	A			
特別活動	○学習活動・学校行事・学年行事・学級集団活動等とおして自ら考え、企画・運営するなど、自主性や自治意識を喚起し、活動意欲や主体的に生き抜く力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を通して、主体的に学校生活を向上・改善させる取組を展開し、適切な評価によって自らの活動や学校に対する誇りを育てる 地域社会に目を向けさせ、中学生として可能な地域貢献の在り方を考え実践できることを模索する 	B		A		A		<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を軸にして、主体的に取り組む態度と母校への誇りを醸成できた。 地域貢献の視点も含めて、より主体的・自治的な方向を目指すよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動が学校改善に大きな役割を果たしている。本校の伝統として確立するよう粘り強く取り組み、須知高校生徒会との連携も、今後視野に入れる。
	○各専門委員会活動をより活発にさせる中で、生徒会活動を充実・活性化させ、生徒自らの力でやりきる意欲と自尊感情、自己有用感、達成感等を培うよう支援する		B	B	B	A	A			

評価項目	重点目標	具体的方策	評価						成果と改善点		
			自己評価			関係者評価			自己評価	学校関係者評価	
			中間	年度末	年度末	年度末	年度末	年度末			
総合的な学習の時間	○各教科で習得する知識や技能を活用し、課題解決に向けて探究的・発展的な学習として充実させるとともに、思考力や表現力等を身につけさせる	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日を活用した総合的な学習の発表会において、教科・領域で学習したことをまとめ考察した内容を発表する 教科・領域横断的に課題を設定し、自ら思考・判断した内容を、小論文（意見作文）で表現できることを目指すシステムの構築を図る 	B		B		B		B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生が新たに地域の食等を調べ、発表する機会を得た。 生徒自らが課題発見できるようSRBの取組を導く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習とその発表会はシステム化されてきた。 地域の食調べを発表だけに留めず、食育に活用する。
	○土曜活用の取組として総合的な学習の成果を発表する場を設定する		B		B		B		B		
読書活動	○読書環境の整備に努め、継続的な読書活動を奨励し、本に親しむ意欲の醸成と読解力・思考力や豊かな表現力等の育成を図るため、日常生活の中に読書の時間を位置づける	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の取組の充実 読書支援員と連携して図書室の整備を図り、教科・領域指導や総合的な学習の時間での活用を図る 読書環境整備の一環として、学級文庫の設置、教職員によるお勧め図書を紹介等を行う 	B		A		A		B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート結果で子どもの読書量が増えているという回答が増えた。 読書支援員の協力のもと図書室等の読書環境が整備された。 	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書の充実とともに読書習慣の更なる定着に努めて欲しい。 読書のためだけの読書にならぬように工夫を願いたい。
	○読書習慣を身につけるため、図書室の有効活用や京丹波町図書室との連携を図る		B		B		B		B		
国際理解教育	○人権尊重の精神を基盤に、ニュージーランドやオーストラリア等の留学生との交流をとおして広い視野から地域や我が国の文化・外国文化の理解を深め、未来に羽ばたく国際人として必要な資質や能力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 留学生との交流活動を通して、日本文化を見直しその良さを発信する姿勢と異文化を受け入れ尊重する姿勢の基礎を培う 	B	B	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> NZへの訪問、留学生の受入ともに前向きに取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解が自国の文化を深く理解することに関わり組む必要がある。
研究・研修	○学び続ける教職員であるために一人ひとりが自己研鑽に努めるとともに、校内研修等をとおして学校の教育力を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進委員会を核にすえて、校内研修を計画的に実施する 研究授業・公開授業を定期的に設定し、事前研究会・研究授業・事後研究会を通して、組織的に授業改善に取り組む 	A		A		A		A	<ul style="list-style-type: none"> 「学びを育む京丹波町MVD」を共通基盤にし、授業研究を活性化できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の研鑽こそが学校の力となるので継続を期待する。
	○生徒の学力向上、健全育成のため、個人の資質・力量を磨き、積極的な授業公開や生徒との関わり等をとおして授業力や生徒指導力の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同の研修会において、学びの連続性、指導の連続性の確立を目指した協議を活性化し、学力の向上・充実に資する取組を推進する 発達段階に応じた対話的な授業展開の在り方、作文指導（表現指導）の在り方についての研究を開始する 	B	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ブロック研修会において幼小中の連続性に係る協議ができた。 言語活動、SRBの取組を軸に小論文をゴールにして書く力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 校種間で遠慮なく意見の交換ができる関係を作り、小中における学びの連続性を、更に高校にまで繋いで欲しい。
	○小中連携を含め、「ことばの力」「言語力」の育成を図る		B		B		B		B		

評価項目	重点目標	具体的方策	評価				成果と改善点		
			自己評価		関係者評価		自己評価	学校関係者評価	
			中間	年度末	年度末	年度末			
組織運営	○校務分掌により、各組織内や組織間の連携を密にして活発な議論を行い、それぞれの機能を充実・活性化させるとともに、自己の責任能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 「ポパイ (positive, passion, improvement) にハウレンソウ (報連相) でフットワーク軽く」を合言葉に、チーム力の向上を図る 企画会議を定期的に開催し、他学年や全校の動きを理解し、見通しを持った指導を展開する 	B		B		B		<ul style="list-style-type: none"> フットワーク軽く動くことができた。情報共有はより精度を高める。 業務内容、分担等を見直し、効率的な組織運営を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> 組織的に取り組むために、情報共有と点検を大切に取る。 強い思いが独善に陥らぬよう、チームワークをより高めていくこと。
	○学校・学年・学級経営の一貫性と統一性のある教育活動を展開し、チーム学校で取り組む		B		A		B		
保護者や地域社会との連携 特色ある学校づくり	○保護者や地域社会から見える生徒の具体的な取組を行い、ホームページ、広報等とおして外向きに発信して、「学校・生徒の見える化」を進め、生徒の動きが地域社会から注目され、支えられる学校づくりをめざす	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問を軸にすえて、顔を合わせた連携を推進する 学校だよりを毎月発行し、生徒の頑張りや成長を、地域・保護者と共有する 	A		A		A		<ul style="list-style-type: none"> HP、学校だよりで情報発信を活性化し、家庭訪問を軸に据えた家庭連携も密に実施できた。 学校公開の機会をより多くすることを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> 蒲生野中学校の目指しているものをしっかり保護者に伝え、保護者に求めることを具体的に明確に示すべき。 学校の可視化が進めば良い反応が戻ってくる。
	○学校の教育力の向上に向け、P D C A サイクルを重視した学校評価の改善・充実を図り、開かれた特色ある学校づくりを推進する		B		B		B		

平成 30 年度 に向けた方 向性	<p>◇授業改善の一層の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びを育む京丹波町メソッドの理念の共有化 めあて・ふり返りの質の向上、効果的な言語活動の導入 SRB メモの取組を活用した思考・判断・表現の活性化 学力診断テスト分析による学力推移の検証継続 <p>◇家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティオ手帳を活用した自己管理能力の育成 生徒会主導で考える情報機器とのつきあい方 授業と連動した家庭学習課題 <p>◇積極的な生徒指導の充実に向けた協働体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 系統的な情報モラル教育の実施 特別活動（生徒会活動）を軸とした取組の活性化 <p>◇H31教育課程作成に向けた検証と計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の趣旨理解、着実な準備（特別の教科道徳先行実施） 働き方改革とも絡めた校内システム（学校行事、分掌、会議等）の見直し
-------------------------	--